

ふれっと

2015
第 30 号

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】



特集

わたしたちの 小さな手仕事

社会とつながるデイセンタ―
ふれあいのDCFプロジェクト

まちの人に聞きました。「福祉って何？」

わくわく倶楽部

旭 博史さん

ワンポイントアドバイザー

健康の秘訣は「胸」にあり！

食を通じて地域とつながる

やさしい食堂七福

カフェで使える
クーポン付き
→5ページ



わたしたちの小さな手仕事

○社会とつながるデイセンターふれあいのDCFプロジェクト

ふれあいを 利用している方たち

デイセンターふれあいには、「重度重複障害者（複数の種類の障害がある方）」といわれる方たちが通っています。彼らの多くは車イスに乗っており、食事やトイレの介助が必要な方たちです。ことばでのコミュニケーションも難しく、彼らが何をしたいのか、何を感しているのか、それを知るためにわ



そんな方たちが、社会の一員としていきいきと暮らしていくにはどうすればいいのか？ そのことを深めていくため、わたしたちはDCFプロジェクト（D・A・Y・C・E・N・T・E・R・F・U・R・E・A・I）を立ち上げました。

発信者として社会と つながる

わたしたちは普段、自分たちが「社会の一員」であると特別意識することはありませんが、改めて考えてみると、「就職してはたらくこと」「買い物や旅行に行くこと」「友達や好きな人がいること」など、様々なところで感じる事ができます。

今年度のDCFプロジェクトでは、その中でも「はたらく」ということに焦点を当てることにしました。ご利用者にサービスの利用者としてだけでなく、発信者として社会とつながってほしいと考えたからです。

とはいえ、重度重複障害のある方が「はたらく」ことができるのか、職員のお仕着せになってしまうのではないかなど、職員間で様々な議論がありました。最終的に、開所当初から続けていたご利用者の創作活動を通して、発信

イメージしてください。天井にぶら下げたお皿には絵の具が入っています。お皿の真下の床には、無地の白いTシャツ。お皿に垂らすように取り付けた紐をたどっていくと、先端を握るAさんの手。わたしはAさんの手をじっと見て、動きだすのを待ちます。じつくりと焦らず。……この後、何が起るのか。



時にダイナミックに、そして時に繊細に、偶然にできた模様もいい感じ



者となることを目指そうということになりました。それが、正しいかどうかはご利用者が教えてくれるはずですよ。

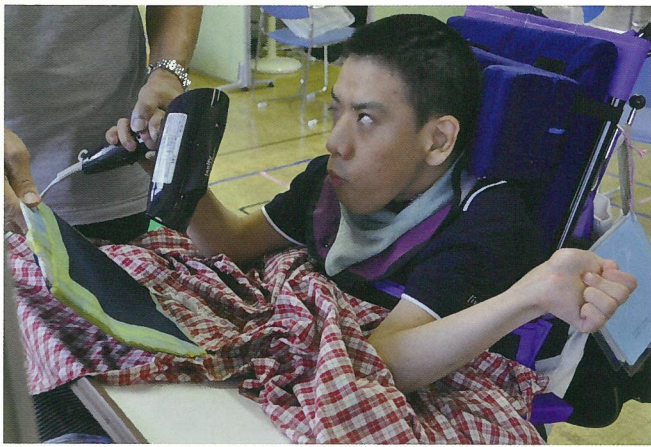
それぞれの方がそれぞれの得意な方法で取り組んでいます





わたしたちの 小さな手仕事

ふれあいのご利用者は、身体に麻痺まひがある方も多く、細かな作業や大きな動きは困難です。しかし、握ったり、引っ張ったり、押ししたりするといった、小さなゆくりとした動きができます。そこで、ふれあいの創作活動では、できることに着目し、それが活かせるような自助具をつくり、参加していただいています。それを繰り返すことによって、作品ができあがっていく



引っ張ったり、足で踏んだり。そのときの表情は真剣そのものです

のです。

できあがった作品は、街の喫茶店やコミュニティセンターの文化祭などでの販売を目指しています。そこで、毎週水曜日に吉祥寺などに出かけて協力者を探す営業活動をしています。DCFプロジェクトのチラシを置いてくれるところも少しずつ見つかかり、10月には吉祥寺南町コミュニティセンターの文化祭とあったかまつりに出展しました。今後は、11月5日(木)〜10日(火)に中央コミュニティセンター文化祭への出展と、12月に吉祥寺のレストラン

「アムリタ食堂」での作品展を予定しています。

わたしたちの小さな手仕事
が街の人たちに受け入れてもらえれば、ご利用者が発信者として、社会の一員として認識されていくことになると考えています。街でDCFのロゴが入った作品を見かけるのは、ずいぶん先の話かもしれませんが、そんなことを思うとワクワクします。

さて、Aさんですが、3分ほどかけて、ゆっくりと紐を引っ張ってくれました。当然、お皿の絵の具はバシヤツとこぼれ、Tシャツに鮮やかな色が広がりました。偶然、体が動いただけなのかもしれません。しかし、わたしは彼の中にある気持ちが動いた結果なのだと思います。

わたしはTシャツを手に取り、「やりましたね」「何に見えるだろう?」「カバ? ソウ?」。Aさんは、困ったような表情で、Tシャツを見ていました。「あれ? できに納得がいけないです



みんなで考えたふれあいのロゴマーク。重なり合う輪はみんなの車イスの車輪を表しています



か?」。Aさんは、体を緊張させています。「よし、ではもう一回」

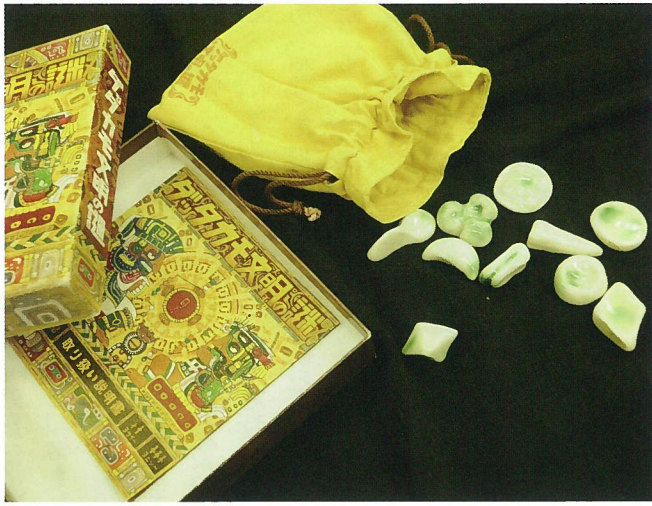
はっきりと具体的なことばでやりとりしているわけではありません。でも、今の彼の気持ちを一緒に考えていくことはできます。職員の独りよがりの思いだけにならないように、ご利用者と一緒にじっくりと取り組みを進めていきたいです。



ギフトテン インダストリ(株) とのめぐり合わせ



わたしたちとギフトテンインダストリ(株)との出会いは突然でした。ある日、武蔵野福祉作業所の職員から、「ふれあいで作っている陶芸作品



ダッタカモ文明の謎。わたしたちはこの小さなコマを作っています



粘土のやわらかさや冷たさを感じながら

をゲームのコマにしたいという会社がある」ということで紹介を受けたのです。

商品として売るには、しっかりとしたものを作らなくてはなりません。どの程度、意向に沿ったものができるのか、不安がありました。が、「ご利用者にとって作りやすい形を考えていきたいし、形は少しずつ変わってもいい」とのことばをいただきました。何よりも、外部の人たちとつながるチャンスです。みんなで頑張っていこうと決めました。

ギフトテンインダストリ(株)は、大量生産には適さないですが、少数でも必要とする人がいるもの(たとえば視覚障害者向けのゲーム)を開発販売する会社です。

今回、ふれあいがご依頼いただいたのは、「ダッタカモ文明の謎」というゲームのコマです。

ギフトテンインダストリ(株)代表の濱田隆史さん、デザイナーの佐藤仁さんにふれあいのご利用者について伺ってみると、「身体障害のある方たちの『できること』から、コマの形や制作方法を考えていくことはとても新鮮だった」とのこと。

また、「新たな道具を作れば、できることが増えるのではないかと、石膏でコマの型を作ってくれたことで、ご利用者は型に粘土を押し込むだけで、簡単にコマが作れるようになりました。

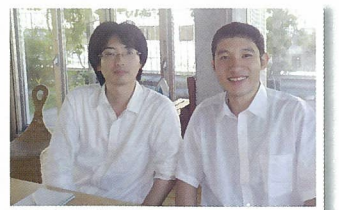
今後、それらのことをヒントに、ギフトテンインダストリ(株)は、障害のある方たちと一緒に新しいもの作りに取り組んでいきたいとおっしゃっていました。

ました。

今回の試みは、ふれあいのご利用者にとっても、新たな経験です。みんなで協力して作ったものが、商品として形になることは、やりがいにもつながっています。お互いに少しずつ刺激を与え合う関係があるのは、とてもいいことですよね。

このめぐり合わせが重度重複障害のある方の「はたらく」ということを考える一つのきっかけになっていければと思っています。

(デイセンターふれあい/柳 亮一郎)



ギフトテンインダストリ(株)の濱田隆史さん(右)、佐藤仁さん(左)

info.

生活介護事業所デイセンターふれあい

- 〒180-0001 武蔵野市吉祥寺北町4-11-16
- TEL 0422-54-5134
- FAX 0422-54-5241
- m-fureai@parkcity.ne.jp
- http://fuku-musashino.or.jp/
- 対象：主に身体障害者手帳をお持ちの方

ギフトテンインダストリ株式会社

- 〒185-0024 国分寺市泉町3-37-34 マージュ西国分寺104
- TEL 070-6512-2282
- http://gift10.net/

→地図
P.8-A



初めてのイベント「誕生日会」の風景です



グループホームくすの木

〒180-0022
武蔵野市境5-22-9
電話：0422-54-5465

→地図
P.8-B

ご自身の身の回りのことがおおむね一人でできる20歳代から50歳代の男性13名が生活しています。毎日、公共交通機関を利用して福祉施設や企業に通われています。

3月に開所したグループホームくすの木には、毎朝午前6時に出勤される方やレストランで調理をされる方など13名が入居されています。
ある方は、くすの木に住み始めてから職員の支援を受けて徒歩とバスで迷わず通えるようになりました。部屋の掃除や洗濯機の操作も生活の中で手順をお伝えして繰り返し練習してできるようになっています。わずか半年のことでそれぞれが自信を持って生活されるようになったと実感しています。

私たち職員は、入居者の方それぞれが「こんな風に暮らしたい」というイメージを広げて、それを実現できるように支援していきたいと思います。思いを大樹の枝葉のように広げていくためには入居者の方が安心して暮らすことが前提ですが、ご家族の協力、地域の見守りも必要になります。職員は環境を整えること、そして自立を目指す気持ちを育てることが大切な役割だと考えています。
(グループホームくすの木／大澤昌之)



施設紹介

思いを 枝葉のように

グループホームくすの木



食を通じて
地域とつながる
むさしの
プレミアムに認定!
やさい食堂七福

→地図
P.8-C



おからのバイクドチーズケーキ

おいしい食事を永く楽しんでいただくためには何より身体が健康でなくてはなりません。やさしい食堂七福は、(公財)武蔵野健康づくり事業団の協力を得て、食材がもつ効能・効果などのコメントをメニューに載せる取り組みを始めました。このような取り組みの中で、同事業団と協働で開発した、おからのバイクドチーズケーキが、この度「むさしのプレミアム」に認定されました。

なことだと思っております。

これからも、多くのお客様に楽しい時間を過ごしていただくとともに、食を通じて健康増進にもお役に立つことができるような、地域の皆様に愛される場を目指してまいります。

(武蔵野福祉作業所／戸頃 仁)

※次号はカフェ・ル・プレを紹介しします

ふれっそ30号をご覧いただいた方に特典です。期間中、ランチをお召し上がりの方に、「おからのバイクドチーズケーキ(プチ)」をお付けします。左下のチケットをお持ちください。

武蔵野市吉祥寺北町4-12-20
☎0422-52-7828

5 営業時間：土・日・祝を除く11:00～16:00
(ランチ11:00～L.O.14:30)

まちの人に 聞きました。

「福祉って 何？」

わくわく倶楽部

旭 博史さん



ご利用者の作品を前に笑顔の旭博史さん。
わくわく倶楽部
武蔵野市吉祥寺東町3-21-2
TEL・FAX 0422-21-7214

アートには、人の心を動かす不思議な力があります。今回は、そんなアートの力に魅せられ、活動を続ける図画工作ボランティア「わくわく倶楽部」の旭博史さんにお話を伺いました。

●教育の現場から地域へ



ご利用者の力を引き出せるよう見守り、励まし、時にお手伝いします

都内の小学校で図画工作の教員を勤め上げた旭さんは、定年を迎えた現在、特別養護老人ホームゆとりえでの図画工作活動の講師をはじめ、小学校の特別支援学級での支援など、これまでの経験を活かして精力的に活動されています。

教員時代、勤め先

の小学校と交流のあったデイサービスでボランティア活動を始めた旭さん。地元の武蔵野市でも役に立ちたいの思いから、お母さまの在宅介護で縁のあったゆとりえにも来ていただくことになりました。月2回の活動は今年で13年目。昨年からは桜堤ケアハウスのデイサービスにも週1回来ていただいています。

ゆとりえには、視力の低下した方や、手指の機能が衰えていたり、認知症のある方がいます。できることが限られるなかで、安心して取り組めて、かつ、個性的な作品が生まれるような自由度も兼ね備えたプログラムをいかに用意するかが活動の生命線だそうです。

「参加してくれる方の心が動くようなレパートリーをもっと増やしていきたい」と話す旭さん。

人生最期のステージを生きる高齢者たちにとってアートが生きるエネルギーになればと、教員時代から学んできたアートセラピーとカウンセリングを融合させた、心のケアにつながる活動を模索しています。

●アートは生きる力になる

学校教育の現場から、地域へと活動を広げる旭さんに、福祉について伺いました。

「互いが積極的に支え合うようなやさしい社会になればいいなと思っています。だから、若い世代と高齢の方がつながる場がもっと広がるといいですね」と旭さん。

「私もまだまだ支える側の人間として、現在の活動を広げるべく、同期や仲間と声を掛けてがんばっています」と旭さんの挑戦は続きます。

ご利用者が完成した作品を手に喜びを分かち合い、居室に飾ったり、お孫さんにプレゼントされている様子を見て、私たち職員も生きる力につながるアートの力を実感しています。

アートをとおして、ご利用者の意欲を引き出してくれる旭さんの生き方もアートです。

(聞き手) 特別養護老人ホームゆとりえ 菊池政之

ランチをお召し上げの方
おからのペイドチーズケーキ
(作り) プレゼント

えすぷれっど

ちょっとひといき♪ 心がほっと温まるスタッフの日常をお届け♪

相談の機会を大切に……

桜堤ケアハウス在宅介護支援センター

村田 学

私は平成8年に入職し、現在は桜堤ケアハウスで、自宅にお住まいの高齢者とそのご家族の相談業務に携わっています。

私たちは、ご相談者の不安や戸惑いを少しでも軽減できるようお話を傾聴し、不安な内容を一つずつ整理して、解決の道筋が見えるようにご提案させ

ていただいています。

当初、途方に暮れて相談に来られたご家族が、相談終了後に「ケアハウスへ相談に来て良かった。これからの生活の道筋が見ついた。他の関係施設や役所等、どの窓口にも相談すれば良いのかわかった」などホッとされた表情でお話しされるのを見ると、「この仕事をしていたて本当に良かった」と実感します。

しかしながら、時に解決の糸口がなかなか見つからない内容もあり、自身、葛藤することもあります。その際には、その方が味わってきた辛さや苦しみなどに心を寄せて、ご相談者自身がどうしていくのが良いかを考えられるように支援しています。

相談を終えて、玄関までご相談者をお送りする際、表情や様子が明るく軽やかになって帰宅する姿を見ると、私自身も嬉しくなります。同時に、気持ちを新たに引き締め、これからも皆さんの気持ちがあくまで軽く、これからの相談支援をしていきたいと思えます。



いつでもご相談お待ちしております

→地図 P.8-D

事務局の風

本部事務局

長谷亮平

私は、今年の4月に採用され、武蔵野障害者総合センター内の事務局で働いています。入職当初は戸惑いの連続でしたが、半年が過ぎ、少しずつ落ち着いて仕事を進めていけるようになりました。わからないことは聞き、間違

いを指摘されれば修正する、学ぶことの多い毎日ではありますが、事務局の皆さんの指導と心遣いにより、今の仕

事に打ち込めています。

事務局は、職員とご利用者との活動中のやりとりが窓口を通して見聞きできるオープンなところが特徴です。窓口は両側に開くガラス扉になっていて、清々しい空気が外から流れ込んでくる、風通しの良さがあります。その窓口には、職員やご利用者、業者の方など様々な人が訪れます。

先日、窓口に書類を届けにいらしたご利用者に「この間ありがとうございます」と話しかけられ、うれしく思いました。それは、私が8月にデイセンターふれあいの外出活動の応援に行ったことへのお礼の言葉でした。一生懸命に話すひた向きなご利用者から出た「ありがとう」は格別なもので、私も純粋な気持ちになりました。

福祉の専門職ではない私ですが、福祉の仕事とは、知識と技術だけではない心のもった務めが実践できて、初めてその役割が果たされていくものではないかと感じました。これからのご利用者との関係を大切に、日々の仕事に励んでいきたいと思えます。



窓口越しから撮影した事務局の日常の風景です

→地図 P.8-E

